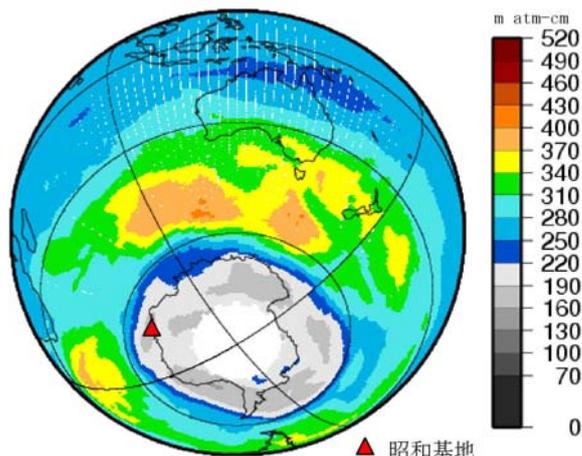


## ◆◆◆ 今年の南極オゾンホールはこれまでの最大級に

— 9月16日は、国際オゾン層保護デー —

気象庁は9月11日（木）、今年の南極オゾンホールの状況について、過去最大級にまで拡大する見込みであると発表しました。

オゾンホールは、例年8月後半に現れ、9月から10月にかけて最盛期を迎え、11月から12月に消滅します。今年は、米国航空宇宙局（NASA）の衛星データをもとに気象庁が解析した結果、8月下旬にオゾンホールが急速に拡大し、9月現在は南極大陸をほぼ覆うような大きさにまでなっているとのこと。



本年9月7日現在の南極オゾンホール  
南極大陸上にはほぼ220 m atm-cm以下の  
オゾンホールが見られる

米国航空宇宙局（NASA）の衛星観測データ  
をもとに気象庁が作成  
(m atm-cmはオゾン全量の単位)

オゾンホールが形成される大きな要因は、大気高層のオゾン層破壊物質と南極上空の気象条件とされていますが、大気中のオゾン層破壊物質の濃度は、「オゾン層保護条約」のもとでの同物質の使用規制等によりその増加傾向が止まってきましたが、依然、1990年代後半のピーク後も高い状態が持続しています。さらに今年はオゾン層破壊の促進に関係する南極域上空の低温域（-78℃以下）の面積が大きいことから、これまでの最大規模となった2006年に匹敵する程度まで拡大すると見込まれています。

世界気象機関（WMO）と国連環境計画（UNEP）が取りまとめた「オゾン層破壊の科学アセスメント：2006」によると、今後数十年間は引き続きオゾンホールが現れると予想されています。気象庁は引き続き、オゾン層の状況を観測し、的確な情報提供に努めるとしています。

折から、9月16日は「国際オゾン層保護デー」でした。これは、1987年の同日オゾン層保護ウィーン条約が22カ国の調印後2カ年が経過し条約が発効し、条約の議定書である「モントリオール議定書」が採択された記念日で、1995年の国連決議によって制定されました。今年の記念日のテーマは、「全世界の利益のための地球全体のパートナーシップ ——モントリオール議定書」となっています。また、我が国では、1989年以降、9月を「オゾン層保護推進月間」として、オゾン層破壊物質（エアコンに使われているフロンガス他）の使用規制の促進等の強化月間としています。オゾン層破壊物質の多くは、地球温暖化をもたらすものが多く、この面からも当該物質の使用規制の着実な実施が必要です。

(気象庁ホームページほかより)